

事業所保存・閲覧用

(評価者の個人名は非公表とされており、保護者様・来訪者様等の閲覧用には、こちらの副本をご使用くださいますようお願いいたします)

東京都福祉サービス第三者評価(2025年度) 評価結果報告書

2026年1月17日

社会福祉法人おひさま会
美園おひさま保育園 御中

〒 160-0023

所在地 東京都新宿区西新宿西新宿8-14-24
西新宿KFビル702

評価機関名 特定非営利活動法人福祉総合評価機構
認証評価機関番号 機構 03 - 081

電話番号 03-6279-0331

代表者氏名 理事長 中込 重秋



以下のとおり評価を行いましたので、東京都福祉サービス評価推進機構に報告いたします。

評価者 (評価者養成講習修了者番号及び担当分野)	修了者番号		担当分野	
	①	H0702006	<input checked="" type="checkbox"/> 福祉	<input checked="" type="checkbox"/> 経営
	②	H0902065	<input checked="" type="checkbox"/> 福祉	<input checked="" type="checkbox"/> 経営
	③	H1001023	<input checked="" type="checkbox"/> 福祉	<input type="checkbox"/> 経営
	④		<input type="checkbox"/> 福祉	<input type="checkbox"/> 経営
	⑤		<input type="checkbox"/> 福祉	<input type="checkbox"/> 経営
	⑥		<input type="checkbox"/> 福祉	<input type="checkbox"/> 経営
福祉サービス種別	認可保育所			
評価対象事業所名称	美園おひさま保育園			
事業所連絡先	〒	187-0041		
	所在地	東京都小平市美園町3-18-11		
	TEL	042-386-4833		
事業所代表者氏名	吉岡 伸太郎			
契約日	2025年	6月	1日	
利用者調査票配布日(実施日)	2025年	7月	18日	
利用者調査結果報告日	2025年	8月	29日	
自己評価の調査票配布日	2025年	7月	18日	
自己評価結果報告日	2025年	8月	29日	
訪問調査日	2025年	9月	5日	
評価合議日	2025年	9月	5日	
コメント (利用者調査・事業評価の工夫点、補助者・専門家等の活用、第三者性確保のための措置などを記入)	・利用者調査は共通評価項目により、インターネットでのウェブアンケート形態で実施しました。 ・開始時に書面・ポスターの配信・配付・掲示等により保護者の理解促進を図るほか、開始後にも提出御礼と提出促進を兼ねたチラシを全対象者に配信または配付し、必要に応じ提出期限を延長するなど、回答率向上にも努めました。 ・事業所に対しては、開始時の説明や補足資料の提供等により、第三者評価制度や評価項目・標準項目への理解を深めてもらうほか、職員層も標準項目単位で評価を行えるようにするなど、よりの確な自己評価実施に配慮しました。			

1	理念・方針（関連 カテゴリー1 リーダーシップと意思決定）
	<p>事業者が大切にしている考え（事業者の理念・ビジョン・使命など）のうち、特に重要なもの（上位5つ程度）を簡潔に記述 （関連 カテゴリー1 リーダーシップと意思決定）</p> <p>【法人の基本方針】 職員自ら主体性を持つとともに、子どもの主体性を尊重し、保育園においては保育実践のスローガンである「子ども自ら、遊びや生活を創り出す！！」</p> <p>【保育の理念】 子どもの人権や主体性を尊重し、子どもの最善の利益（幸福）のために職員一同豊かな愛情と専門性をもって接し、子どもたちの望ましい未来を作り出す力の基礎を培うために、養護と教育が一体となった『総合的な保育』を行います。又、家庭援助のために子どもを中心として信頼できる子育てサポーターの一員でありたいと考えています。</p> <p>【保育の目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・心身ともに健康な子ども ・心のやさしい子ども ・やりたいことをやれる子ども ・考える子ども ・人と関わる力を持った子ども <p>【保育の方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・主体性を育てる保育 ・一人ひとりの特性に応じた保育 ・自発的な遊びを通じた保育 ・かかわりを大切にされた保育
2	期待する職員像（関連 カテゴリー5 職員と組織の能力向上）
	<p>(1)職員に求めている人材像や役割</p> <p>子どもの満足度を高め、子どもの夢ややりたいことを実現できるための「保育の質」にこだわりを持つ。</p>
	<p>(2)職員に期待すること(職員に持って欲しい使命感)</p> <p>子どもの満足度を追求するための「保育の質」にこだわりを持つために、「保育の質」を支える職員の満足度(楽しく保育を行う環境)を追求する。</p>

調査対象

調査開始時点での当園の利用世帯78(在籍児童数96)を対象として実施した。なお、兄弟姉妹がいる世帯は1世帯として扱った。

調査方法

調査票及び調査項目は共通評価項目に準拠した。ウェブアンケート形態により実施し、回収は保護者から評価機関への直接電送(外国語世帯のみ調査票の直接郵送)にて行った。結果は選択式・自由記述とも園に報告し、自由意見には回答者の匿名性に配慮した処理を適宜行った。

利用者総数	96
利用者家族総数(世帯)	78
共通評価項目による調査対象者数	78
共通評価項目による調査の有効回答者数	44
利用者家族総数に対する回答者割合(%)	56.4

利用者調査全体のコメント

総合的な満足度は「大変満足」40.9%・「満足」47.7%の計88.6%で、設問別では「発達に配慮した保育活動」「食事」「急な残業等への配慮」など、全17問中12問で80～90%台の高い支持を得ている。自由意見では「園内に遊ぶ施設がたくさんあり、子どもたちが退屈しないことや、自分たちで決めてその日のアクティビティを決められることが気に入っており、たくさんの子どもがいる中で関わり方を学べ、仲違いがあった時やよくないことをした時の先生の対応も素晴らしい」「先生たちが皆明るく、優しく話やすく、行事も年間を通してたくさんあり、親子ともども楽しませてもらっている」「食事のメニューが充実しており、延長保育も快く預かってくれ、園内がきれいで開放的である」「子どもの「やりたい!」という気持ちを尊重し、その日にしたいことを自分で選ぶという方針が素晴らしく、イベントの内容も子どもたちが話し合っ決めて決めるところがよい」「園児の積極性を大事にしてくれ、遊びに集中できる環境が整えられている」などの声が寄せられている。要望などとしては複数見られたのは、情報発信や日常のコミュニケーション、安全管理や日常の保育に関することである。

利用者調査結果

共通評価項目	実数			
	はい	どちらともいえない	いいえ	無回答 非該当
1. 保育所での活動は、子どもの心身の発達に役立っているか	42	1	0	1
<p>実質的な満足度(「無回答・非該当」を除いた割合・以下同)は、「はい」が97.7%、「どちらともいえない」が2.3%となっている。自由意見には「入園前より話す言葉も増え、自分でできることも増えてきた」「着替えや排せつ等、園でも指導し、やる気を引き出してくれる」「身体を使った遊び、認知の発達に合わせた遊びを用意してくれる」「お友達同士の関わりや先生とのふれ合いを通して、子どもが大きく成長している」「子ども本人の意思を尊重してくれる」など8件の称賛・感謝のほか、活動内容等の保護者との共有に関する意見があった。</p>				
2. 保育所での活動は、子どもが興味や関心を持って行えるようになっているか	40	4	0	0
<p>「はい」が90.9%、「どちらともいえない」が9.1%となっている。自由意見は9件で、「日々の活動(室内遊び、園庭・公園)が充実し、プール・水遊び、食育活動、買い物や図書館に行ったり、イベント等の活動もしてくれ、子どもの興味がますます広がっていると感じる」「散歩の行き先や園内の活動内容、イベント内容も、子ども自身が意見を出したり選択できたり、とても素晴らしい環境だと思う」「子どもの意思を尊重してくれる」などのほか、子どもの経験の保障や活動内容について、気になる点を挙げる声が寄せられている。</p>				
3. 提供される食事は、子どもの状況に配慮されているか	42	1	0	1
<p>「はい」が97.7%、「どちらともいえない」が2.3%となっている。自由意見には「季節のメニューなど、子どもも楽しみながら食事ができていると思う」「毎日おいしい給食を提供してくれてありがたい」「おやつ＝甘いものではなく、栄養を補うものになっていてありがたい」「栄養バランスよく、子どもに合わせた食材の大きさにしてくれてありがたい、給食・おやつともに、子どもが毎日おいしく食べている」「食べる量を選択でき、その日のメニューや体調で選べる」など9件の称賛・感謝のほか、補食に関する要望が寄せられている。</p>				

4. 保育所の生活で身近な自然や社会と十分関わっているか	40	3	0	1
「はい」が93.0%、「どちらともいえない」が7.0%となっている。 自由意見は3件で、「子どもの行きたい、やりたいを尊重し、家でできないこともやってくれる」「子どもたちの自主性を尊重してもらえることはとてもよいと思う」などのほか、プール遊びや子どもの経験の保障について、気になる点を挙げる声が寄せられている。				
5. 保育時間の変更は、保護者の状況に柔軟に対応されているか	31	0	1	12
「はい」が96.9%、「いいえ」が3.1%となっている。 自由意見は6件で、「柔軟に対応してくれる」「仕事はどうしても遅くなる時も、対応してくれた」「アプリでお知らせができ、大変助かってる」などのほか、預かり時間や土曜保育利用の融通性について、要望や気になる点が寄せられている。				
6. 安全対策が十分取られていると思うか	29	11	2	2
「はい」が69.0%、「どちらともいえない」が26.2%、「いいえ」が4.8%となっている。 自由意見は10件で、「休みの連絡を忘れてた時に9時に連絡が来るため、毎日出席確認しているのがわかり、安心する」「登降園の際に手を洗えるのは安心できる」「嘔吐した時は子どもを教室から出して消毒してくれたり、できる範囲で徹底してくれていると思う」などのほか、感染症対策や衛生管理、保育中の安全管理、外部侵入対策等について、気になる点や要望が挙げられている。				
7. 行事日程の設定は、保護者の状況に対する配慮は十分か	40	3	0	1
「はい」が93.0%、「どちらともいえない」が7.0%となっており、「はい」の値は前回(2022年度・以下同、82.5%)から改善されている。 自由意見は4件で、「土曜日参加が多い」などのほか、行事の日程等の保護者への連絡について、就労等へのさらなる配慮を望む声が寄せられている。				
8. 子どもの保育について家庭と保育所に信頼関係があるか	35	8	1	0
「はい」が79.5%、「どちらともいえない」が18.2%、「いいえ」が2.3%となっている。 自由意見は5件で、「さまざまな先生が声をかけてくれるのでありがたい」「どの先生でも子どものことを把握し、相談共有ができる」「先生方はとても信頼している」のほか、日頃の子どもの様子などの伝達・報告やコミュニケーション機会の確保について、気になる点を挙げる声が寄せられている。				
9. 施設内の清掃、整理整頓は行き届いているか	39	4	1	0
「はい」が88.6%、「どちらともいえない」が9.1%、「いいえ」が2.3%となっている。 自由意見は4件で、「清潔である」「基本的には清潔だと思う」のほか、清掃・整理整頓や衛生管理について、気になる点を挙げる声が寄せられている。				
10. 職員の接遇・態度は適切か	40	2	2	0
「はい」が90.9%、「どちらともいえない」が4.5%、「いいえ」が4.5%となっている。 自由意見は3件で、「挨拶も気持ちよくしてもらっている」などのほか、職員の保護者・子どもへの接遇について、気になる点を挙げる声が寄せられている。				

11. 病気やけがをした際の職員の対応は信頼できるか	35	6	0	3
「はい」が85.4%、「どちらともいえない」が14.6%となっている。 自由意見は4件で、「報告してくれるし、毎回気づいてくれる」「ケガの時、病院に連れていってくれる」のほか、調査実施時点の状況として、看護師の不在を懸念する声が見られた。				
12. 子ども同士のトラブルに関する対応は信頼できるか	22	8	1	13
「はい」が71.0%、「どちらともいえない」が25.8%、「いいえ」が3.2%となっている。 自由意見は6件で、「少しのことで報告してもらっている」などのほか、子ども同士のトラブル等の把握や職員の対応、発生時の保護者への報告・説明などについて、気になる点や要望が寄せられている。				
13. 子どもの気持ちを尊重した対応がされているか	40	3	0	1
「はい」が93.0%、「どちらともいえない」が7.0%となっており、「はい」の値は前回(82.5%)から改善されている。 自由意見には「皆さん、柔軟によくみてくれていると思う」の1件が寄せられている。				
14. 子どもと保護者のプライバシーは守られているか	32	1	0	11
「はい」が97.0%、「どちらともいえない」が3.0%となっている。 自由意見には記入がなかった。				
15. 保育内容に関する職員の説明はわかりやすいか	32	1	0	11
「はい」が74.4%、「どちらともいえない」が20.9%、「いいえ」が4.7%となっている。 自由意見は7件で、「入園時説明会にて、育児方針等、時間をかけて大変丁寧に説明してくれたが印象的だった」「いつも子どもを見てくれて感謝している」「連絡帳の返信を書かない代わりに、日々アプリにてクラスごとの様子を配信してくれる」のほか、保育内容等の保護者への説明・発信やコミュニケーション機会の確保などについて、気になる点や要望を挙げる声が見られている。				
16. 利用者の不満や要望は対応されているか	24	5	0	15
「はい」が82.8%、「どちらともいえない」が17.2%となっている。 自由意見には「不満に思っていることを伝えただけでわからないのでわからない」の1件があった。				
17. 外部の苦情窓口(行政や第三者委員等)にも相談できることを伝えられているか	23	6	1	14
「はい」が76.7%、「どちらともいえない」が20.0%、「いいえ」が3.3%となっている。 自由意見には記入がなかった。				

I 組織マネジメント項目(カテゴリー1～5、7)

No.	共通評価項目		
1	カテゴリー1		
	リーダーシップと意思決定		
	サブカテゴリー1(1-1)		
	事業所が目指していることの実現に向けて一丸となっている	サブカテゴリー毎の標準項目実施状況	7/7
	評価項目1 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)を周知している		評点(〇〇)
	評価	標準項目	
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)について、職員の理解が深まるような取り組みを行っている	<input type="radio"/> 非該当
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)について、利用者本人や家族等の理解が深まるような取り組みを行っている	<input type="radio"/> 非該当
	評価項目2 経営層(運営管理者含む)は自らの役割と責任を職員に対して表明し、事業所をリードしている		評点(〇〇)
	評価	標準項目	
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 経営層は、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けて、自らの役割と責任を職員に伝えている	<input type="radio"/> 非該当
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 経営層は、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けて、自らの役割と責任に基づいて職員が取り組むべき方向性を提示し、リーダーシップを発揮している	<input type="radio"/> 非該当
	評価項目3 重要な案件について、経営層(運営管理者含む)は実情を踏まえて意思決定し、その内容を関係者に周知している		評点(〇〇〇)
	評価	標準項目	
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 重要な案件の検討や決定の手順があらかじめ決まっている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 重要な意思決定に関し、その内容と決定経緯について職員に周知している	<input type="radio"/> 非該当	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 利用者等に対し、重要な案件に関する決定事項について、必要に応じてその内容と決定経緯を伝えている	<input type="radio"/> 非該当	
カテゴリー1の講評			
<p>目指す保育のあり方を、理念・目標をはじめとするさまざまな表現で言語化している</p> <p>保育と児童福祉に係る各種法令等を踏まえ、子どもの人権と主体性の尊重及び最善の利益・幸福の保障を旨として、子どもたちの望ましい未来をつくり出す力の基礎を培う、養護と教育が一体となった総合的な保育の提供と、子どもを中心とした家庭の援助と子育ての支援を、保育の理念に掲げている。また「心身ともに健康な子ども」など5つの子ども像を保育の目標とし、これらの体現に向けた保育の方針及び環境・実践方法の指針を定めている。これらに加え、10か条の「乳幼児教育基本方針」をはじめ、目指す保育の具体像をさまざまに言語化している。</p> <p>職員・保護者への保育理念・目標等の周知と、経営層による園運営の統括がなされている</p> <p>上記の多様な表現で言語化される園の保育と運営における理想像について、職員には入職時の初任者教育と、毎年度の法人の各種研修によって継続的な周知を図り、同市内の系列園と行う内部研修でも、保育の実務に関する研鑽を通じて組織的に理解を深めている。保護者には見学・入園時に説明するほか、それらの実践としての日々の保育と子どもたちの成長を、懇談会やインスタグラム、種々の発信・掲示物等を通じて伝えている。日々の園運営は園長・副園長を中心に、経営層が統括と現場への指導を担い、種々の会議で園・法人の各種方針を職員に伝えている。</p> <p>現場主体の園運営を旨とし、必要な意思決定や保護者への各種発信の仕組みを整えている</p> <p>クラス・リーダー・職員全体の各単位の会議が相互に連携し、運営・保育全般における情報共有と、案件に応じた意思決定の場として機能している。また同市内の系列園との「管理職会議」で、共通の施策・方針などを随時検討・決定している。園運営においては、現状把握と必要な判断・意思決定のもとで実行する「OODAサイクル」のもとで、個人・チームともに主体的に判断・行動する、現場主体のマネジメントを旨としている。保護者への各種重要事項の周知は、案件や緊急性に応じ、書面や電子配信、またはそれらの併用によって行っている。</p>			

カテゴリー2		
2	事業所を取り巻く環境の把握・活用及び計画の策定と実行	
サブカテゴリー1(2-1)		
	事業所を取り巻く環境について情報を把握・検討し、課題を抽出している	サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 6/6
	評価項目1 事業所を取り巻く環境について情報を把握・検討し、課題を抽出している	評点(〇〇〇〇〇〇)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 利用者アンケートなど、事業所側からの働きかけにより利用者の意向について情報を収集し、ニーズを把握している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 事業所運営に対する職員の意向を把握・検討している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 地域の福祉の現状について情報を収集し、ニーズを把握している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 福祉事業全体の動向(行政や業界などの動き)について情報を収集し、課題やニーズを把握している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	5. 事業所の経営状況を把握・検討している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	6. 把握したニーズ等や検討内容を踏まえ、事業所として対応すべき課題を抽出している	<input type="radio"/> 非該当

サブカテゴリー2(2-2)		
実践的な計画策定に取り組んでいる		サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況
		5/5
評価項目1 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた中・長期計画及び単年度計画を策定している 評点(〇〇)		
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 課題をふまえ、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた中・長期計画を策定している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 中・長期計画をふまえた単年度計画を策定している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 策定している計画に合わせた予算編成を行っている	<input type="radio"/> 非該当
評価項目2 着実な計画の実行に取り組んでいる 評点(〇〇)		
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた、計画の推進方法(体制、職員の役割や活動内容など)、目指す目標、達成度合いを測る指標を明示している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 計画推進にあたり、進捗状況を確認し(半期・月単位など)、必要に応じて見直しをしながら取り組んでいる	<input type="radio"/> 非該当
カテゴリー2の講評		
園・法人の運営や重点課題、各種業務に関する計画を作成し、実施の体制を定めている 年度の事業計画書に、保育や食事・防災・研修などの実施方針や年間予定を記載するほか、これらの各分野で、年間及び各期間の具体的な実行計画を別途作成している。これらの実施の体制として、経営層及び各職種の職責などを職務分担当に定めるほか、各種の事務・庶務や防災・防犯訓練、安全・食事・広報・園庭開発等の各種委員会・係・プロジェクト活動の担当者・役割分担などを一覧化している。また法人の中・長期計画に、経営全般の方針と、国内外の子どもの教育・育成の概況を踏まえた「目指す保育の姿(イメージ)」が詳述されている。		
園の現況を常に踏まえた運営の参考となる、保護者や職員の意向の把握に取り組んでいる 前述の通り、園の運営においては現状認識と必要な対策の実行を旨とする「OODAサイクル」を重視しており、子ども中心という不変・普遍の軸のもとで、常に子どもの姿から現状を検証し、その時々々の課題を随時解決しながら園を前へと進めてゆくことを、基本的な方針としている。そうした日々の運営や各種の業務計画等の立案の参考として、保護者全体の意向を、懇談会等での傾聴や行事後のアンケート等から把握し、職員の意向は前述の各会議や個別の面談・自己評価、上述の各プロジェクト等の担当者による毎月の全体会議での報告などから把握している。		
事業環境に関する各種情報の収集と、経営状況の管理の仕組みが整えられている 地域の子育てや保育・教育などの状況やニーズは、小平市の保育所園長会や保育所・幼稚園・小学校の連携会議、要保護児童対策地域協議会など、参画する行政主催の各種会議のほか、見学受け入れ時の未就園世帯との会話などから把握している。また関連する行政の政策・制度等の動向を、左記の市園長会や自治体・関係団体等の発信物などから把握するほか、園長が関連団体の要職を務めていることから、各種の情報が随時伝えられている。予算の作成・管理をはじめとする経営状況の把握と管理は、法人が主導的に行っており、推移を園と随時共有している。		

カテゴリ-3		
3 経営における社会的責任		
サブカテゴリ-1(3-1)		
社会人・福祉サービス事業者として守るべきことを明確にし、その達成に取り組んでいる		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 2/2
評価項目1 社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理などを周知し、遵守されるよう取り組んでいる		評点(〇〇)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 全職員に対して、社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳を含む)などを周知し、理解が深まるように取り組んでいる	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 全職員に対して、守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳を含む)などが遵守されるように取り組み、定期的を確認している。	<input type="radio"/> 非該当
サブカテゴリ-2(3-2)		
利用者の権利擁護のために、組織的な取り組みを行っている		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 4/4
評価項目1 利用者の意向(意見・要望・苦情)を多様な方法で把握し、迅速に対応する体制を整えている		評点(〇〇)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 苦情解決制度を利用できることや事業者以外の相談先を遠慮なく利用できることを、利用者に伝えている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 利用者の意向(意見・要望・苦情)に対し、組織的に速やかに対応する仕組みがある	<input type="radio"/> 非該当
評価項目2 虐待に対し組織的な防止対策と対応をしている		評点(〇〇)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 利用者の気持ちを傷つけるような職員の言動、虐待が行われることのないよう、職員が相互に日常の言動を振り返り、組織的に防止対策を徹底している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 虐待を受けている疑いのある利用者の情報を得たときや、虐待の事実を把握した際には、組織として関係機関と連携しながら対応する体制を整えている	<input type="radio"/> 非該当

サブカテゴリ3(3-3)		
地域の福祉に役立つ取り組みを行っている		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 5/5
評価項目1 透明性を高め、地域との関係づくりに向けて取り組んでいる <p style="text-align: right;">評点(〇〇)</p>		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 透明性を高めるために、事業所の活動内容を開示するなど開かれた組織となるよう取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	2. ボランティア、実習生及び見学・体験する小・中学生などの受け入れ体制を整備している	○非該当
評価項目2 地域の福祉ニーズにもとづき、地域貢献の取り組みをしている <p style="text-align: right;">評点(〇〇〇)</p>		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 地域の福祉ニーズにもとづき、事業所の機能や専門性をいかした地域貢献の取り組みをしている	○非該当
●あり ○なし	2. 事業所が地域の一員としての役割を果たすため、地域関係機関のネットワーク(事業者連絡会、施設長会など)に参画している	○非該当
●あり ○なし	3. 地域ネットワーク内での共通課題について、協働できる体制を整えて、取り組んでいる	○非該当
カテゴリ3の講評		
<p>子どもを基準として判断・行動することを、全職員が守るべき最も重要な規範としている</p> <p>全職員が所持する「ポリシーステートメント」に、子どもの呼称や日常の現場での関わり、種々の虐待的言動の禁止などに関する規範と、その他の勤務上の各種ルールが明記されている。職員には同手引きと就業規則をもとに、入職時に啓発を行うほか、法人の研修や園内の各会議等でも、関連の注意喚起が随時なされている。保育の合言葉(スローガン)とする「子ども自ら、遊びや生活を創りだす」を踏まえ、常に子どもを基準として判断・行動することを旨とし、経営層が折に触れて言及することで、現場に子どもを中心に置いた保育実践の徹底を促している。</p> <p>保護者の意向への適切な対応や、虐待等の早期発見と防止に取り組んでいる</p> <p>苦情解決制度や玄関に設置する意見箱について、保護者への周知を図るほか、これらによらず日々のコミュニケーション等で寄せられる声を含め、案件に応じ傾聴の場を設けるなど、適切な対応に努めている。またポリシーステートメントや法人作成の関連のマニュアルに、虐待等の早期発見・防止及び対応に関する諸事項を文書化するとともに、必要の際の通報・連携先を定め、虐待等が懸念される事象の発見時や、支援を要する子ども・家庭の在籍時には、関係職員間で情報を共有し、行政機関との連携のもとで対応にあたる体制を整えている。</p> <p>地域の一員として、園の情報・機能の提供や保育・教育施設との連携に取り組んでいる</p> <p>ホームページ・Instagramや小平市の各種媒体等を通じ、園の情報を発信するほか、実習生等の受け入れに係る手順書を常備し、保育実習生が来園するほか、小中学生・高校生の職場体験等の受け入れも積極的に行っている。また市の保育所園長会や要保護児童対策地域協議会、保・幼・小の連携会議を通じ、保育・教育施設間の連携にも加わっている。入園前見学で来園する未就園世帯には、求めに応じ育児相談等に随時応えており、地域への貢献とさらなる認知の獲得を視野に、園庭開放や産前産後世帯向けの保育所体験等も今後企画したいと考えている。</p>		

カテゴリー4		
4 リスクマネジメント		
サブカテゴリー1(4-1)		
リスクマネジメントに計画的に取り組んでいる		サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況 5/5
評価項目1 事業所としてリスクマネジメントに取り組んでいる		評点(〇〇〇〇〇)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 事業所が目指していることの実現を阻害する恐れのあるリスク(事故、感染症、侵入、災害、経営環境の変化など)を洗い出し、どのリスクに対策を講じるかについて優先順位をつけている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 優先順位の高さに応じて、リスクに対し必要な対策をとっている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 災害や深刻な事故等に遭遇した場合に備え、事業継続計画(BCP)を策定している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. リスクに対する必要な対策や事業継続計画について、職員、利用者、関係機関などに周知し、理解して対応できるように取り組んでいる	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	5. 事故、感染症、侵入、災害などが発生したときは、要因及び対応を分析し、再発防止と対策の見直しに取り組んでいる	<input type="radio"/> 非該当
サブカテゴリー2(4-2)		
事業所の情報管理を適切に行い活用できるようにしている		サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況 4/4
評価項目1 事業所の情報管理を適切に行い活用できるようにしている		評点(〇〇〇〇)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 情報の収集、利用、保管、廃棄について規程・ルールを定め、職員(実習生やボランティアを含む)が理解し遵守するための取り組みを行っている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 収集した情報は、必要な人が必要なときに活用できるように整理・管理している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 情報の重要性や機密性を踏まえ、アクセス権限を設定するほか、情報漏えい防止のための対策をとっている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 事業所で扱っている個人情報については、「個人情報保護法」の趣旨を踏まえ、利用目的の明示及び開示請求への対応を含む規程・体制を整備している	<input type="radio"/> 非該当
カテゴリー4の講評		
<p>各種の点検・訓練をはじめ、日常の安全確保のための対策をさまざまに行っている</p> <p>園内の各室各所及び園庭について、所定のチェック表による安全点検を毎月行っている。また、子どもの睡眠時の状態確認や夏季の戸外活動等の自粛、各所及び玩具等の周期的な清掃・消毒など、SIDS・熱中症や各種感染症への日常的な対策にも努めるほか、嘔吐物処理手順の確認や消防署による救命救急講習、地域の公立病院が行う救命救急・アレルギーショック対応訓練等についても、計画的な実施・受講に取り組んでいる。毎月の防災訓練と毎年度の防犯訓練の実施、災害・感染症発生時のBCP(業務継続計画)の作成もなされている。</p> <p>保育中の事故等の事例の把握と検証・共有を随時行い、安全の向上に努めている</p> <p>子どものケガやかみつき等の事故・トラブルの発生時には、検証と原因究明を行い、防止対策を検討するとともに、昼礼や連絡アプリでの発信により、組織内に周知させている。また事象の重要性に応じ、上席者を交えた複数名の話し合いによる詳細な考察を行い、会議での報告や記録の供覧により、現場への注意を促すほか、誤飲や見失い・衝突など、各種の事故の未遂事例は、ヒヤリハットとして同様に検証と共有を行う仕組みとしている。園舎内外の各所にはカメラを設置しており、事務室でのモニタリングと、映像記録を用いた事故等の検証もなされている。</p> <p>各種情報の適切な管理と利用に関する仕組みや環境を整備している</p> <p>各種の書類は機密性等に応じて施錠管理し、PC・タブレット及びソフトウェア類にはパスワード等によるログイン制限を設けるなど、情報漏洩の防止に配慮している。また職員には入職時に、就業規則と守秘義務・個人情報管理に係る誓約書をもとに啓発を行っており、実習生等には受け入れ時に守秘義務の厳守を求めることとなっている。重要事項説明書には個人情報保護方針を記載し、利用目的や開示・訂正等の請求への対応方針を含め、入園時に保護者に説明と同意確認を行い、内外の発信物や取材対応等における肖像の利用についても併せて確認している。</p>		

カテゴリ-5		
5 職員と組織の能力向上		
サブカテゴリ-1(5-1)		
事業所が目指している経営・サービスを実現する人材の確保・育成・定着に取り組んでいる		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 10/12
評価項目1 事業所が目指していることの実現に必要な人材構成にしている		評点(〇〇)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 事業所が求める人材の確保ができるよう工夫している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 事業所が求める人材、事業所の状況を踏まえ、育成や将来の人材構成を見据えた異動や配置に取り組んでいる	<input type="radio"/> 非該当
評価項目2 事業所の求める人材像に基づき人材育成計画を策定している		評点(●●)
評価	標準項目	
<input type="radio"/> あり <input checked="" type="radio"/> なし	1. 事業所が求める職責または職務内容に応じた長期的な展望(キャリアパス)が職員に分かりやすく周知されている	<input type="radio"/> 非該当
<input type="radio"/> あり <input checked="" type="radio"/> なし	2. 事業所が求める職責または職務内容に応じた長期的な展望(キャリアパス)と連動した事業所の人材育成計画を策定している	<input type="radio"/> 非該当
評価項目3 事業所の求める人材像を踏まえた職員の育成に取り組んでいる		評点(〇〇〇〇)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 勤務形態に関わらず、職員にさまざまな方法で研修等を実施している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 職員一人ひとりの意向や経験等に基づき、個人別の育成(研修)計画を策定している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 職員一人ひとりの育成の成果を確認し、個人別の育成(研修)計画へ反映している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 指導を担当する職員に対して、自らの役割を理解してより良い指導ができるよう組織的に支援を行っている	<input type="radio"/> 非該当
評価項目4 職員の定着に向け、職員の意欲向上に取り組んでいる		評点(〇〇〇〇)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 事業所の特性を踏まえ、職員の育成・評価と処遇(賃金、昇進・昇格等)・称賛などを連動させている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 就業状況(勤務時間や休暇取得、職場環境・健康・ストレスなど)を把握し、安心して働き続けられる職場づくりに取り組んでいる	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 職員の意識を把握し、意欲と働きがいの向上に取り組んでいる	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 職員間の良好な人間関係構築のための取り組みを行っている	<input type="radio"/> 非該当

サブカテゴリ-2(5-2)	
組織力の向上に取り組んでいる	サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 3/3
評価項目1 組織力の向上に向け、組織としての学びとチームワークの促進に取り組んでいる	評点(〇〇〇)
評価	標準項目
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 職員一人ひとりが学んだ研修内容を、レポートや発表等を通じて共有化している
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 職員一人ひとりの日頃の気づきや工夫について、互いに話し合い、サービスの質の向上や業務改善に活かす仕組みを設けている
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 目標達成や課題解決に向けて、チームでの活動が効果的に進むよう取り組んでいる
カテゴリ-5の講評	
<p> 人材の確保と異動・配置や、キャリアプラン等に応じた働き方の仕組みを整備している 職員の募集・採用は、ホームページや各種採用業者・媒体、採用関連のイベントの活用、各種養成校での求人や在職者からの紹介など、多様な方法で行い、必要な人材の確保に努めている。系列園間の異動や園内の配置は、面談等で把握する各人の意向を踏まえ、各園の体制の状況と各職員に期待する役割や成長、各人の経験・能力とチームとしてのそれらのバランスを考慮して決定している。また法人共通の勤務・処遇形態として、キャリア(総合職)・ノンキャリア(一般職)の2体系を導入し、各職員のキャリアプラン等に応じた選択を可能としている。 </p> <p> 所定の書式・項目に基づく自己評価と経営層との面談を軸に、職員の成長を支援している 個別の人材育成制度として、保育者・職員としての自己評価と、「面談シート」による成長の支援を年2回行う仕組みを、全職員に運用している。自己評価・面談シートとも、各人の課題・目標を半期ごとに設定し、経営層との面談によって状況を共有し、必要な助言や指導を行うこととなっている。また所定の人事考課表により、各人が保育者と組織人・職業人の各分野で、自身を振り返る仕組みも別途設けている。上記の新たな人事制度の各体系との連動も視野に、各職種の経験・職位等に応じた職責や能力・研鑽等の段階的な指標を定めることも一考されたい。 </p> <p> 内外での多様な研鑽と日々の会議等での話し合い、労働環境面の各種整備がなされている 園長や外部の有識者による園内研修、小平市や各種研修機関等が行う各種の研修の受講や、同市内の系列園との相互研鑽、長崎県内の系列園の視察見学など、内外のさまざまな学びの場を活用し、職員の専門性向上を促している。またクラス会議・職員会議など各単位の話し合いの場で、直近の現場の諸課題の検討が随時行われ、職員主体の各委員会・係・プロジェクトの活動もなされている。各種の労務管理や折々の懇親の機会の設定など、労働環境の整備にも努めており、今般の職員自己評価を踏まえ、現場との認識の共有をより深めたいと考えている。 </p>	

7 カテゴリー7	
事業所の重要課題に対する組織的な活動	
サブカテゴリー1(7-1)	
事業所の重要課題に対して、目標設定・取り組み・結果の検証・次期の事業活動等への反映を行っている	
評価項目1 事業所の理念・基本方針の実現を図る上での重要課題について、前年度具体的な目標を設定して取り組み、結果を検証して、今年度以降の改善につなげている(その1)	
前年度の重要課題に対する組織的な活動(評価機関によるまとめ)	
<p>保育所保育指針をはじめとする乳幼児の保育・教育に係る各種指針・要領、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿(10の姿)」等を踏まえ、子ども一人ひとりの興味や関心を起点とした保育の活動・環境を提供し、主体的な遊びと学びを通じて成長・発達を支援することを、保育における基本的な方針としている。そのための重要な人的環境として、各クラスとも担任制ではなく、保育者間の連携によるチームでの保育を行う体制としており、日常的な保育者同士の対話から、一人ひとりの育ちの状況を多面的にとらえ、発達や習熟度に合わせた臨機応変な活動の提供を重視している。</p> <p>これらにおいては保育者間・職種間の活発なコミュニケーションと諸般における理解・認識の共有が重要となるが、それらのための環境と体制の整備が課題となっていた。</p> <p>昨年度はその解決を念頭に、園長が随時職員への啓発を行い、全職員が所持する手引書「ポリシーステートメント」も踏まえ、組織力の底上げを図った。</p>	
目標の設定と取り組み	<input checked="" type="radio"/> 具体的な目標を設定し、その達成に向けて取り組みを行った <input type="radio"/> 具体的な目標を設定したが、その達成に向けて取り組みが行われていなかった <input type="radio"/> 具体的な目標が設定されていない
取り組みの検証	<input checked="" type="radio"/> 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行った <input type="radio"/> 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行っていなかった(目標設定を行っていなかった場合も含む) <input type="radio"/> 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である
検証結果の反映	<input checked="" type="radio"/> 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させた <input type="radio"/> 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させていない <input type="radio"/> 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である
評価項目1で確認した組織的な活動や評語の選択に関する講評	
<p>園長が会議等の場で現場への啓発を随時行い、勤怠ルールの徹底や職位ごとの職責・権限の明確化など、組織における基本的な規範のほか、「子どものためになること・子どもにとって楽しいことであれば、だれに気兼ねすることなく実行する」など、職員としての判断の軸を折に触れて発信した。今般の職員自己評価では、組織の同僚性・コミュニケーション環境や、子どもの主体性の尊重を旨とする保育の実践などについて、肯定的な意見がさまざまに挙げられており、一連の取組の好影響とも考えられる。</p> <p>今年度も引き続き、常に子どもを軸に置いた判断・行動の徹底を、組織の文化として定着させるべく、現場への啓発に努めている。</p>	

評価項目2 事業所の理念・基本方針の実現を図る上での重要課題について、前年度具体的な目標を設定して取り組み、結果を検証して、今年度以降の改善につなげている(その2)	
前年度の重要課題に対する組織的な活動(評価機関によるまとめ) 上記「評価項目1」に既述の、子ども一人ひとりの興味や関心、育ちの状況等を起点とした保育の活動の提供においては、それぞれの子どもが自発的に物事に興味を持ち、遊びを発想し、取り組める物的環境の整備も重要となる。各クラスで開園以来それに取り組んでおり、昨年度も例年同様に注力した。 日々の会議や保育中の保育者間の話し合いにより、室内のゾーン設定や玩具・教材や絵本等の設置などについて、子どもの習熟や選択に応じた活動の展開を可能とする環境構成を随時検討した。	
目標の設定と取り組み	<input checked="" type="radio"/> 具体的な目標を設定し、その達成に向けて取り組みを行った <input type="radio"/> 具体的な目標を設定したが、その達成に向けて取り組みが行われていなかった <input type="radio"/> 具体的な目標が設定されていなかった
取り組みの検証	<input checked="" type="radio"/> 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行った <input type="radio"/> 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行っていなかった(目標設定を行っていなかった場合も含む) <input type="radio"/> 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である
検証結果の反映	<input checked="" type="radio"/> 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させた <input type="radio"/> 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させていない <input type="radio"/> 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である
評価項目2で確認した組織的な活動や評語の選択に関する講評 日々のクラス・全体での話し合いにより、子どもの状況を共有する中で、各室内の環境構成に関する効果測定が随時なされており、一人ひとりの習熟度や毎日の選択に応じた保育活動の提供については、子どもたちが自発的に取り組む姿などから、一定の成果につながったと考えている。遊びや学びのゾーンの設定をはじめ、物的環境の充実についても、同様に子どもの成長・発達に寄与する一方、それぞれの興味や意欲の把握とその環境への反映については、さらなる研鑽の必要性も認識している。 今年度も引き続きこれらに注力し、玩具等の充実についても継続的に取り組むこととしている。	

Ⅱ サービス提供のプロセス項目(カテゴリー6-1～3、6-5～6)

No.	共通評価項目	
サブカテゴリー1		
1	サービス情報の提供	サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 4/4
評価項目1 利用希望者等に対してサービスの情報を提供している		評点(〇〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 利用希望者等が入手できる媒体で、事業所の情報を提供している	○非該当
●あり ○なし	2. 利用希望者等の特性を考慮し、提供する情報の表記や内容をわかりやすいものになっている	○非該当
●あり ○なし	3. 事業所の情報を、行政や関係機関等に提供している	○非該当
●あり ○なし	4. 利用希望者等の問い合わせや見学の要望があった場合には、個別の状況に応じて対応している	○非該当
サブカテゴリー1の講評		
<p>ホームページを通じ、園の概要・特色等に関する各種の情報を発信している</p> <p>ホームページには、園の保育の方針・特色を示す複数の資料のほか、各階及び園庭の環境、乳児・幼児の一日の生活の流れや年間の主な行事について、さまざまな写真を活用して視覚的に伝えるほか、各階・園庭の環境については見取り図や模型の写真等も掲載している。また所在地・アクセスマップをはじめとする園の概要情報、「地域の中で親も子どもも育ちあえる『共異体』の創造」を謳う法人の理念や、発達段階ごとの毎月の献立も掲載し、見学の申し込みや問い合わせ等を受け付けるテキスト入力フォームも設けている。</p> <p>Instagramやパンフレット、小平市のサイトも、情報発信に活用している</p> <p>Instagramも開設し、上記の園のサイトにもアクセスリンクを設定している。さまざまな行事や活動の様子を、毎回複数の写真のほか、活動等によっては動画も活用して、保育者の言葉とともに紹介し、入園希望者が園の保育や入園後の子どもたちの生活を具体的にイメージできるようにしている。また見学者等に提供する資料として、ホームページでも発信される各種情報を掲載したパンフレットも制作している。パンフレットは地域のスイミングスクールにも常置するほか、小平市のホームページにも、園の基本情報と園のサイトへのリンクが掲載されている。</p> <p>入園希望者の見学では、園内の環境や保育の方針・特色などを具体的に伝えている</p> <p>入園希望者の見学は、園児の生活や活動を見やすい平日10時からを基本とし、他の時間帯・曜日の希望にも体制の状況に応じて対応している。個別に日程を設定して実施し、園内の各階を案内しながら、子どもの意思・主体性を尊重した選択制の活動、文字・数といった認知系の教育・保育は、子どもの興味に応じ、生活の中で提供していることなど、園の保育の方針を伝えるほか、食事の様子や「レストラン」と呼ぶランチルームの環境も紹介している。また発熱・ケガ時の対応や延長保育利用、持ち物など、保護者の関心の高い事柄も説明している。</p>		

サブカテゴリー2		
2	サービスの開始・終了時の対応	サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 6/6
評価項目1 サービスの開始にあたり保護者に説明し、同意を得ている <p style="text-align: right;">評点(〇〇〇)</p>		
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. サービスの開始にあたり、基本的ルール、重要事項等を保護者の状況に応じて説明している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. サービス内容について、保護者の同意を得るようにしている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. サービスに関する説明の際に、保護者の意向を確認し、記録化している	<input type="radio"/> 非該当
評価項目2 サービスの開始及び終了の際に、環境変化に対応できるよう支援を行っている <p style="text-align: right;">評点(〇〇〇)</p>		
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. サービス開始時に、子どもの保育に必要な個別事情や要望を決められた書式に記録し、把握している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 利用開始直後には、子どもの不安やストレスが軽減されるように配慮している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. サービスの終了時には、子どもや保護者の不安を軽減し、支援の継続性に配慮した支援を行っている	<input type="radio"/> 非該当
サブカテゴリー2の講評		
入園予定の各家庭に対し、必要な各種事項に関する説明と同意確認を行っている 入園予定の家庭には、新年度前には合同の説明会を実施し、出席困難な家庭や年度途中の入園世帯には個別に説明を行っている。いずれも「入園のしおり(重要事項説明書)」をもとに、園の概要及び保育において目指すものを具体的に示す種々の方針のほか、登降園の時間・場所の目安及び受け入れ・引き渡しの方法、年間の行事予定と乳児・幼児の1日の生活の流れ、必要な準備物、日常の連絡・服装その他の通園にあたっての依頼事項、保健や各種費用負担など、入園にあたっての重要事項を説明し、同意書の提出を持って合意を確認している。		
個別の面談と各種の書類をもとに、保育開始に必要な子ども・家庭の情報を収集している 重要事項説明と同時期に、個別に日程を設定して各家庭と面談を実施し、子ども・家庭に関する各種情報の収集を行っている。各家庭に事前の記入を依頼し、提出される「児童の記録」「健康カード」「生活調査票」その他の各種書類をもとに、家庭環境や緊急連絡先、出産時から入園までの保健に関する各種履歴、家庭での育児と生活の状況や集団保育経験の有無、授乳・食事及びアレルギーの状況などを把握し、必要に応じ各書式に追記している。これらの各種情報を、新年度開始前に各担任に引き継ぎ、保育開始に備えている。		
入園時の子ども・保護者の不安や負担の軽減と、利用終了後の関係継続に努めている 新入園児の通園開始当初には、環境変化等に伴う子どもの負担やストレスの軽減に配慮し、短時間保育から開始して徐々に滞在時間を延ばす「慣れ保育」を実施している。実施の期間は子どもの状態や保護者の仕事の状況等に応じて調整し、配置体制を工夫してなるべく個別に、細やかな援助を行うほか、毛布その他の子どもの心のよりどころとなるものも、必要に応じ携行してもらい、お迎え時の保護者との丁寧な対話にも努め、保護者の不安の軽減を図っている。卒園児への夏休みボランティア等での来園の呼びかけなど、利用終了後の関係継続にも努めている。		

サブカテゴリ-3		
3	個別状況の記録と計画策定	サブカテゴリ毎の 標準項目実施状況 13/13
評価項目1 定められた手順に従ってアセスメント(情報収集、分析および課題設定)を行い、子どもの課題を個別のサービス場面ごとに明示している		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 子どもの心身状況や生活状況等を、組織が定めた統一した様式によって記録し把握している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 子どもや保護者のニーズや課題を明示する手続きを定め、記録している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. アセスメントの定期的見直しの時期と手順を定めている	<input type="radio"/> 非該当
評価項目2 全体的な計画や子どもの様子を踏まえた指導計画を作成している		評点(〇〇〇〇〇)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 指導計画は、全体的な計画を踏まえて、養護(生命の保持・情緒の安定)と教育(健康・人間関係・環境・言葉・表現)の各領域を考慮して作成している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 指導計画は、子どもの実態や子どもを取り巻く状況の変化に即して、保育の過程を踏まえて作成、見直しをしている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 個別的な計画が必要な子どもに対し、子どもの状況(年齢・発達の状況など)に応じて、個別的な計画の作成、見直しをしている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 指導計画を保護者にわかりやすく説明している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	5. 指導計画は、見直しの時期・手順等の基準を定め、必要に応じて見直ししている	<input type="radio"/> 非該当

評価項目3 子どもに関する記録を適切に作成する体制を確立している		評点(〇〇)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 子ども一人ひとりに関する必要な情報を記載するしくみがある	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 指導計画に沿った具体的な保育内容と、その結果子どもの状態がどのように推移したのかについて具体的に記録している	<input type="radio"/> 非該当
評価項目4 子どもの状況等に関する情報を職員間で共有化している		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 指導計画の内容や個人の記録を、保育を担当する職員すべてが共有し、活用している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 子どもや保護者の状況に変化があった場合の情報について、職員間で申し送り・引継ぎ等を行っている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 子ども一人ひとりに対する理解を深めるため、事例を持ち寄り等話し合う機会を設けている	<input type="radio"/> 非該当
サブカテゴリ3の講評		
<p>子どもの健康や発育・発達の状態を把握するための仕組みを整えている</p> <p>毎月身体測定を実施して記録し、結果を保護者に伝えている。予防接種の履歴や既往症、体質、健康診断の結果などの記録は「健康カード」で管理している。子どもの心身の発達については、養護と教育に関する主な発達の現れに関するチェックリスト「見守るほいく 発達記録登録用シート」を用いて定期的に確認しており、子どもの多面的な姿の把握や職員による偏った判断の防止を目的に、複数名で確認することとしている。さらに0・1歳児については、微細な発達の変化を把握できるよう、より詳細なリストも活用している。</p> <p>長期・短期の保育計画を策定し、子どもたちの姿から実践・振り返りを行っている</p> <p>年間を4期で構成する長期的な保育計画を策定し、年間目標を季節や成長に合わせて展開できるよう、月案・週案を策定している。保育実践では計画した活動だけでなく、子ども主体の展開を大切にしており、計画外の活動についても取り組めるよう、カリキュラムを柔軟に変更している。実践にあたり、子どもの関心の広がりや行動を想定して図式化した展開図を作成し、実際の子どものつぶやきや大人の配慮を、朱書きや丸印などのきまりを設けて追記している。この図をもとに、実践の妥当性や援助・環境構成の適切性を振り返り、次の計画につなげている。</p> <p>発達を踏まえた援助を行うための計画策定と、そのための話し合いの仕組みを整えている</p> <p>0・1歳児と3歳以上児において、異年齢保育を実施しており、上記の保育計画には、年齢別のねらいや配慮に加え、異年齢保育を実施する際のねらいや配慮、個別の留意事項を、必要に応じて書き入れている。3歳以上児の異年齢保育は、子どもの発達・歩行・情緒を軸に子どもを小集団に分け、適切な援助を行う「チーム保育」を採り入れており、クラス会議で子どもの様子や、物的環境の適切性、家庭状況などについて話し合って援助に活かすようにしている。また心身の発達が著しい低年齢児については、個人別の指導計画も策定している。</p>		

サブカテゴリー5			
5	プライバシーの保護等個人の尊厳の尊重	サブカテゴリー毎の標準項目実施状況	5/5
評価項目1 子どものプライバシー保護を徹底している		評点(〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 子どもに関する情報(事項)を外部とやりとりする必要がある場合には、保護者の同意を得るようにしている		○非該当
●あり ○なし	2. 子どもの羞恥心に配慮した保育を行っている		○非該当
評価項目2 サービスの実施にあたり、子どもの権利を守り、子どもの意思を尊重している		評点(〇〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 日常の保育の中で子ども一人ひとりを尊重している		○非該当
●あり ○なし	2. 子どもと保護者の価値観や生活習慣に配慮した保育を行っている		○非該当
●あり ○なし	3. 虐待防止や育児困難家庭への支援に向けて、職員の勉強会・研修会を実施し理解を深めている		○非該当
サブカテゴリー5の講評			
<p>個人情報の保護と、子どものプライバシーや羞恥心・自尊心への配慮に努めている</p> <p>入園時の説明の際に、個人情報保護の方針を保護者に伝えて同意を確認し、子どもの情報を外部とやり取りする必要がある場合には、そのつど保護者の確認を取ることとしている。子どものプライバシーへの配慮として、おむつ交換や夏季保育の着替えでは衝立や目隠しを施し、生活や活動場面に応じた配慮を行っている。また排せつの失敗の際には、個別にさりげなく実施し、趣致心や自尊心への配慮にも努めている。年長児のお泊まり保育でも、夜の排せつへの不安がある場合には、事前に状況を把握し家庭とも連絡を図りながら、個別に対応している。</p> <p>子ども一人ひとりの心情や尊厳、それぞれの興味や意欲を尊重した援助に努めている</p> <p>子どもの意欲や興味に応じた選択制の保育、子どもの習熟や発達段階等に即した活動の提供など、集団・一律ではない、一人ひとりの状況に応じた保育実践に取り組んでいる。また子ども間のトラブル等の際には、保育者がそれぞれの子どもの様子に寄り添い、幼児クラスでは「ピーステーブル」での子ども同士の対話も促すなど、常に子どもの心情や尊厳を尊重した関わりに努めている。「美園まつり」では子どもたちの提案をすべて採用し、各年齢で子どもが企画したお屋さん等が、保育者も協力して出展され、「すうじやさん」等のユニークな発想も実現されている。</p> <p>各家庭の生活習慣等への配慮と、虐待等への対応や実務を通じた現場の啓発に努めている</p> <p>各家庭の生活習慣や育児の方針などは、入園時の面談とその後の日々のコミュニケーション等を通じて随時把握し、園の方針にも照らしながら、実施可能な個別対応を行っている。また各保育者が子どもや保護者の状況、送迎時等の親子の関係の様子などから、虐待や育児困難等の兆候の発見に努め、事案が生じた際は即時に行政機関に通報するとともに、関係職員間で情報を共有し、行政機関との連携のもとで支援している。関連の手引書類も整備しており、これらの実務を通じた現場の学びのほか、園内研修等によるさらなる研鑽にも取り組まれている。</p>			

サブカテゴリ-6		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況	5/5
6 事業所業務の標準化			
評価項目1 手引書等を整備し、事業所業務の標準化を図るための取り組みをしている		評点(〇〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 手引書(基準書、手順書、マニュアル)等で、事業所が提供しているサービスの基本事項や手順等を明確にしている	○非該当	
●あり ○なし	2. 提供しているサービスが定められた基本事項や手順等に沿っているかどうか定期的に点検・見直しをしている	○非該当	
●あり ○なし	3. 職員は、わからないことが起きた際や業務点検の手段として、日常的に手引書等を活用している	○非該当	
評価項目2 サービスの向上をめざして、事業所の標準的な業務水準を見直す取り組みをしている		評点(〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 提供しているサービスの基本事項や手順等は変更の時期や見直しの基準が定められている	○非該当	
●あり ○なし	2. 提供しているサービスの基本事項や手順等の見直しにあたり、職員や保護者等からの意見や提案、子どもの様子を反映するようにしている	○非該当	
サブカテゴリ-6の講評			
<p>手引書「ポリシーステートメント」に、執務に際して必要な諸事項が文書化されている</p> <p>手引書「ポリシーステートメント」に、法人共通の保育の理念・方針等や園の保育の全体的な計画、組織運営・チームワーク等に関する各種規範、望まれる人材像や就業規則等の労務関連の諸規定、待遇・身だしなみや勤務上の各種ルール、ハラスメントの禁止等、職員・職業人としての基本心得が定められている。併せて同手引書に、子どもの人権の尊重や虐待的言動の禁止、保育者としての望ましい資質・態度などのほか、登降園時の対応や連絡帳・各種便りや園内掲示等の各種発信物、保育記録の作成など、実務に関する手順等も文書化している。</p> <p>ポリシーステートメントの活用や、保育の活動・環境等の随時の見直しに取り組んでいる</p> <p>ポリシーステートメントは全職員に配付し、入職者への教育に活用するほか、必要の際の参照を促している。またプライバシー保護・人権擁護、子どもへの言葉遣い、実習生受け入れなど、現場の状況や直近の業務に応じて会議で確認している。同手引書は法人で作成と内容の管理を行い、関連の法令・ガイドライン等や各園の意見等をもとに改訂する仕組みとしており、改訂があった場合は内容の差し替えなどを行うこととなっている。また園内ではクラス・全体の各会議で、保育や子どもの発達等の推移を踏まえ、活動内容や環境構成等の見直しを随時行っている。</p> <p>職員や保護者の意向等の活用、保育や安全・保健に関する各種点検・訓練もなされている</p> <p>上記のほか、関連業者の企画をもとに、当園を含む法人各園職員合同の各チームが、5年を期間とした研鑽・改善活動に取り組む仕組みも設けている。また全職員が「自己評価チェックシート表」による年2回の内省を行い、子どもへの日常の関わり・保育提供、その中での個別の心情への配慮などについて振り返っており、「事故防止チェックリスト」による園舎内及び園庭の毎月の安全点検や、保健・安全に関する各種の実技訓練も実施している。保護者の意向の把握と反映にも努め、行事後にはウェブアンケートで感想等を収集し、次回の企画の参考としている。</p>			

Ⅲ サービスの実施項目(カテゴリー6-4)

		サブカテゴリー4	
サービスの実施項目		サブカテゴリー毎の標準項目実施状況	36/36
1	評価項目1 子ども一人ひとりの発達の状態に応じた保育を行っている	評点(〇〇〇〇〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 発達の過程や生活環境などにより、子ども一人ひとりの全体的な姿を把握したうえで保育を行っている	○非該当	
●あり ○なし	2. 子どもが主体的に周囲の人・もの・ことに興味や関心を持ち、動きかけることができるよう、環境を工夫している	○非該当	
●あり ○なし	3. 子ども同士が年齢や文化・習慣の違いなどを認め合い、互いを尊重する心が育つよう配慮している	○非該当	
●あり ○なし	4. 特別な配慮が必要な子ども(障害のある子どもを含む)の保育にあたっては、他の子どもとの生活を通して共に成長できるよう援助している	○非該当	
●あり ○なし	5. 発達の過程で生じる子ども同士のトラブル(けんか・かみつき等)に対し、子どもの気持ちを尊重した対応をしている	○非該当	
●あり ○なし	6. 【5歳児の定員を設けている保育所のみ】 小学校教育への円滑な接続に向け、小学校と連携をとって、援助している	○非該当	
評価項目1の講評			
<p>子どもの発達と遊びの発展を重視した環境構成の工夫に取り組んでいる</p> <p>子どもの発達や興味の状態を定期的に確認する仕組みを整えている。把握した子どもの姿をもとに、提供する玩具や空間構成を検討しており、「見守るほいく 発達記録登録用シート」を用いて、玩具や遊びが適切かどうかを確認している。遊びのつながりや発展を促す環境構成の工夫に取り組んでおり、遊びが単一のコーナーにとどまらず、積木で作った家でごっこ遊びが始まるといったような、異なる遊びが影響し合ったり、発展的に融合したりすることを想定し、コーナー同士の位置関係を考慮した「ゾーニング」と呼ぶ空間構成を採り入れている。</p> <p>異年齢保育による育ち合いを促し、トラブルや発達の特性への援助に努めている</p> <p>3歳以上児では、異年齢の子どもたちが、日々生活と遊びをともにすることによって、思いやる気持ちや意欲の向上といった心の成長が促されるとともに、年下児に伝える力の伸長や、年上児をまねながら遊び方や生活習慣の獲得など、さまざまな学びがもたらされている。子ども同士のトラブルの際には、双方の気持ちに寄り添い、状況の説明や言葉の代弁などを通じて、関わり方や言葉の使い方を身につけられるよう努めている。特別な配慮を必要とする子どもへの対応では、職員間で情報と認識を共有し、専門家の助言も参考にしながら援助を行っている。</p> <p>個々の状況に応じた「チーム保育」「習熟度別保育」を採り入れている</p> <p>発達が著しく個人差が大きい時期の子どもに対して、個々の状態に適した環境の提供と援助を実現するため、子どもの発達・歩行・情緒を軸に、子どもの小集団を分けて保育する、「チーム保育」を採り入れている。また3歳以上児においては、異年齢保育の中でも、子どもが無理なく取り組めるよう、それぞれの得意・苦手や習熟度に応じた活動の提供と援助に取り組んでいる。制作活動を実施する際には、使える道具や技法を習熟度に応じて提供し、水遊びなど、子どもたちの得意・苦手などを踏まえて、水位や遊びの内容を変えるなど、配慮に努めている。</p>			

2 評価項目2		子どもの生活が安定するよう、子ども一人ひとりの生活のリズムに配慮した保育を行っている		評点(〇〇〇〇)
評価	標準項目			
●あり ○なし	1. 登園時に、家庭での子どもの様子を保護者に確認している			○非該当
●あり ○なし	2. 発達の状態に応じ、食事・排せつなどの基本的な生活習慣の大切さを伝え、身につくよう援助している			○非該当
●あり ○なし	3. 休息(昼寝を含む)の長さや時間帯は子どもの状況に配慮している			○非該当
●あり ○なし	4. 降園時に、その日の子どもの状況を保護者一人ひとりに直接伝えている			○非該当
評価項目2の講評				
<p>登園時に子どもの様子を把握し、降園時にはその日の様子を保護者に伝えている</p> <p>全年齢で毎日連絡帳をやり取りしており、園での様子を伝えるだけでなく、家庭での睡眠・食事や機嫌などの子どもの状態を把握し、その日の保育に活かしている。登園時の視診では、子どもと挨拶を交わしながら、顔色のほか、熱や傷の有無を確かめている。把握した子どもの様子や保護者からの連絡事項等の情報は、「クラス名簿」に記載して職員間で共有している。降園時には、その日の子どもの様子を、できる限りエピソードを添えて保護者に伝えるよう努めるほか、毎日連絡アプリを用いて、活動の様子を、コメントに写真を添えて配信している。</p> <p>生活能力の獲得への援助は、発達と主体性・個別性を尊重して行うことを基本としている</p> <p>生活するうえで必要となる能力や習慣の獲得への援助は、子どもの発達と、主体性・個別性を尊重して行うことを基本としている。排せつの自立への援助では、子ども一人ひとりの排せつまでの時間や尿意・便意のリズムを把握し、それに合わせて個別にトイレに誘いかけながら、感覚をつかめるようにするとともに、成功した時には、喜びをともにすることで、成功体験や自信につなげている。また衣服の着脱の援助は、一緒に手伝いながら手順やコツを教え、自分で行おうとする意欲が見られる時には、気持ちを尊重して、見守りながらさりげなく援助している。</p> <p>生活リズムや体力に応じて、必要な休息を取れるよう環境を整え、配慮に努めている</p> <p>発達の過程で必要となる午前寝や夕寝に対応し、保育室内にはゆっくり過ごせる「くつろぎスペース」を設けるほか、水分をいつでも摂れる環境を整え、発汗後や活動後に必要に応じて実施する着替えも心身のリフレッシュにつながっている。午睡は身体を休めることを目的として実施している。発達段階に応じたSIDS対策を講じるほか、入眠の際には、子どもが安心できるようそばについたり、トントンしたり身体をさすったりするなど、個々に合わせて援助方法を変え、幼児には入眠前に気持ちを落ち着かせられるよう、絵本の読み聞かせを実施している。</p>				

3 評価項目3 日常の保育を通して、子どもの生活や遊びが豊かに展開されるよう工夫している		評点(〇〇〇〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子どもの自主性、自発性を尊重し、遊びこめる時間と空間の配慮をしている	○非該当
●あり ○なし	2. 子どもが、集団活動に主体的に関われるよう援助している	○非該当
●あり ○なし	3. 子ども一人ひとりの状況に応じて、子どもが言葉(発声や喃語を含む)や表情、身振り等による応答的なやり取りを楽しみ、言葉に対する感覚を養えるよう配慮している	○非該当
●あり ○なし	4. 子どもが様々な表現を楽しめるようにしている	○非該当
●あり ○なし	5. 戸外・園外活動には、季節の移り変わりなどを感じとることができるような視点を取り入れている	○非該当
●あり ○なし	6. 生活や遊びを通して、子どもがきまりの大切さに気付き、自分の気持ちを調整する力を育てられるよう、配慮している	○非該当
評価項目3の講評		
<p>活動の導入と振り返りでは、子ども自身の思考と言語化を促すための工夫がなされている 子ども自身の興味・関心に基づいた活動参加を促し、活動への意欲と集中力を高められるよう、朝の会で、子どもたちが保育者から提示された複数の活動の中から一つを選択できるように、意見を聴く時間を設けている。また午睡前には午前中の活動を振り返っており、自分が取り組んだ活動を言語化して発表し、友達の活動を知るとともに、学びを整理・定着させるとともに、次への活動意欲につながっている。帰りの会においても、その日の出来事を振り返る時間を設け、さらに翌日の話をすることで、見通しや期待を持てるようにしている。</p> <p>言葉を介したさまざまな活動が、子どもたちの心の成長を促している 絵本の読み聞かせや手遊びなどを通じて、言語能力や想像力を育み、集中力を培っている。援助は言葉を添えながら行うことを基本とし、子ども自身が状況や感覚を言葉で理解できるようにしている。さまざまな種類の絵本を用意して、多様な世界や価値観に触れられるようにすることで、子どもの知的好奇心を刺激するほか、すべての部屋にごっこ遊びを楽しめる環境を用意しており、生活や体験を再現しながら、自分の考えやイメージを友達と伝え合うことで、語彙や表現力を培い、時に生じるトラブルの際の話し合いは、対話力や共感性の向上を促している。</p> <p>戸外活動や表現活動を通じて、感受性や創造性、科学的思考の基礎を育てている 戸外活動では、土や草木の匂い、風の音、木の実の形や感触などを体験したり、草木の様子から季節の移り変わりを感じたりするほか、虫の探索や観察を行っている。また室内では魚やヤモリを飼育している。これらの自然との関わりを持つ活動は、自然の微細な変化に気づく感受性を育み、不思議を感じて調べることで、科学的思考の基礎を培っている。工作や描画を採り入れており、自由な発想を素材や道具を使って形にする体験が創造性を高め、音楽に合わせてダンスを楽しめるように、自由に使えるタブレット端末を用意し、リズム感や身体感覚を培っている。</p>		

4 評価項目4 日常の保育に変化と潤いを持たせるよう、行事等を実施している		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 行事等の実施にあたり、子どもが興味や関心を持ち、自ら進んで取り組めるよう工夫している	○非該当
●あり ○なし	2. みんなで協力し、やり遂げることの喜びを味わえるような行事等を実施している	○非該当
●あり ○なし	3. 子どもが意欲的に行事等に取り組めるよう、行事等の準備・実施にあたり、保護者の理解や協力を得るための工夫をしている	○非該当
評価項目4の講評		
<p>子どもの思いを聴き取り、対話を通じて主体的な行事への参加を促している 行事の導入では、前年度の様子も伝えながら行事の内容を説明し、具体的なイメージの共有に努めている。保育者主導の一方向的な伝達にとどまらず、子どもたち自身が「何をしたいか」「どう進めたいか」を考え、主体的に行事を創り上げる体験ができるよう、対話の時間を設けている。集団での話し合いにおいては、発言が難しい子どもがいることを考慮し、保育者は個別での丁寧な聴き取りや日々のつぶやきへの傾聴から、子どもの思いや意見を把握し、必要に応じて代弁や発言への誘いかけを行うなど、すべての子どもの声を尊重する配慮に努めている。</p> <p>子どもの発案と選択を尊重し、遊びと学びを深める主体的な行事を実践している 「美園まつり」では、お化け屋敷やアクセサリー屋・数字屋などを、子どもたちが発案・制作している。制作過程では作り方を調べ、試行錯誤するほか、買い物にも出かけている。年長児のお泊まり保育では、子どもの希望に基づいた選択的な活動を導入しており、午前は動物公園への遠足と室内での制作、午後は銭湯とクッキングに分かれ、夕食は全員が仕込みに参加したピザと一緒に食べている。生活発表会では日常の興味や遊びの再現を重視し、なりきり遊びの様子やライブクッキング、ファッションショーを披露したり、作品を展示したりしている。</p> <p>保護者参加の行事や冊子を通じて、子どもたちの成長を保護者に伝えている 行事を通じて子どもの成長を保護者と共有できるよう、親子遠足や美園まつり、「スポーツフェスティバル」、生活発表会など、保護者参加の行事を探り入れている。また行事が子どもたちの興味や日々の活動とつながった学びの機会であり、行事での体験がさらなる好奇心の広がりや協同性の向上を促していることを保護者に伝えられるよう、活動の履歴を収めた冊子を作成している。冊子には、行事に取り組むにあたり、子どもたちが興味を持ったきっかけのほか、発言や子どもたち同士の対話の内容、試行錯誤の様子などが写真とともに紹介されている。</p>		

5 評価項目5 保育時間の長い子どもが落ち着いて過ごせるような配慮をしている		評点(〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 保育時間の長い子どもが安心し、くつろげる環境になるよう配慮をしている	○非該当
●あり ○なし	2. 保育時間が長くなる中で、保育形態の変化がある場合でも、子どもが楽しく過ごせるよう配慮をしている	○非該当
評価項目5の講評		
<p>保育時間が長くなる子どもたちが健康的に過ごせる配慮に努めている</p> <p>保育時間が長くなる子どもたちが、健康的に過ごせるよう、登園時の視診や日中の子どもの様子などから、子どもの体調を把握し、病後登園初日のほか、いつもと違う様子や疲れが見られる場合には、頻りに視診を行って体調の急変に備えている。子どもが自分のペースで休息を取れるよう、保育室内にはくつろげるスペースを設け、体力に応じて、午前寝や夕寝にも対応している。水分補給を定期的に促すほか、幼児クラスでは自分で飲める環境も整えている。延長保育の際には、補食を提供することで、栄養を補給するとともに、空腹による不安を和らげている。</p> <p>夕刻以降も専属の職員が子どもの特徴を把握し、楽しく活動できるよう工夫している</p> <p>夕刻以降の時間帯においても、子どもたちが楽しく意欲的に活動できるよう工夫している。気分転換を兼ねた身体を動かす活動として、ホールでの運動や園内散歩を採り入れ、天候が良ければ園庭で過ごすこともある。また幼児クラスでは人数に応じて、夕刻専用の玩具の提供なども行っている。延長保育の時間帯は、専属の保育者が担当することを基本とし、その時間帯に見られる子どもの姿、性格、子ども同士の相性など、個々の子どもの特徴を把握して関わっている。日中の子どもの様子については伝達簿に記載し、職員間で情報共有の徹底に努めている。</p> <p>子どもの心理面の不安に応え、長時間保育への移行への配慮に努めている</p> <p>他児の降園が続き、保護者のお迎えを待つうちに寂しくなってしまうたり、疲れから情緒面の不安が見られたりする場合には、スキンシップを図ったり、ゆっくり会話や子どもの好きな遊びと一緒に楽しむなど、安心できるよう援助している。入園時には面談を実施して、子どもの成長や健康状況などの個別の情報を保護者から聴き取るほか、通園開始後の心身の負担を軽減するための「慣れ保育」を、保護者の都合がつけ限り採り入れており、徐々に時間を延ばしながら長時間保育に移行することで、子どもの心身の負担を軽減している。</p>		

6 評価項目6		子どもが楽しく安心して食べることができる食事を提供している		評点(〇〇〇〇〇)	
評価		標準項目			
●あり ○なし		1. 子どもが楽しく、落ち着いて食事をとれるような雰囲気作りに配慮している		○非該当	
●あり ○なし		2. メニューや味付けなどに工夫を凝らしている		○非該当	
●あり ○なし		3. 子どもの体調(食物アレルギーを含む)や文化の違いに応じた食事を提供している		○非該当	
●あり ○なし		4. 食についての関心を深めるための取り組み(食材の栽培や子どもの調理活動等)を行っている		○非該当	
●あり ○なし		5. 保護者や地域の多様な関係者との連携及び協働のもとで、食に関する取り組みを行っている		○非該当	
評価項目6の講評					
<p>多様な食体験と選択肢で、子どもの食への意欲や主体性を育み、味覚の基礎を培っている</p> <p>給食は栄養バランスやエネルギー量を満たすだけでなく、旬の食材を用いて季節感のあるものとするほか、さまざまな調理法を採り入れ、伝統行事を感じるメニューや海外のメニューも提供するなど、多様な食の体験ができるよう工夫している。味付けは子どもの味覚を育てる薄味としている。また3歳以上児では、レストラン形式での食事提供とし、子どもは自分の空腹のタイミングで食事ができるようにするほか、小・中・大盛などの見本で自分の食べられる量を知り、苦手な食材は減らして提供することも可能とし、楽しい食事の時間となるようにしている。</p> <p>食物アレルギー等の除去食や離乳食を安全に提供するための対策を講じている</p> <p>食物アレルギーがある子どもには除去食を提供している。保護者との面談や医師による生活管理指導表から状況を確認し、献立の内容を保護者と共有したうえで対応している。年1回再検査を依頼して、体質の変化を把握できるようにしている。アレルギー食の提供の際には、各段階で複数名による確認を行い、個別のテーブルを使用するなど、誤食防止の対策を講じている。また文化的・宗教的な背景を事由とする除去食についても、可能な限り対応している。離乳食の提供では、子どもの状況を保護者と共有したうえで、無理なく安全な移行に努めている。</p> <p>子どもが食事への興味・関心や意欲を高める食育活動を実施している</p> <p>日々の遊びを食育につなげており、2歳児の実践では、毛糸のおもちゃを使ってお買い物ごっこを楽しむ様子をとらえ、保育者が実際の買い物提案し、スーパーに出かけて買い物の体験をしている。入手した野菜を使って簡単な調理と試食も楽しむほか、園外に借りた農園では、夏野菜の栽培に取り組んでおり、種や苗を植えて水やりを体験している。収穫したものは調理保育に活用しており、バジルやピーマンなどを用いてピザパーティーを行い、包丁を使う体験もしている。また5歳児では、食事ですられる食材を栄養素で分類する取組も行っている。</p>					

7 評価項目7 子どもが心身の健康を維持できるよう援助している		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子どもが自分の健康や安全に関心を持ち、病気やけがを予防・防止できるように援助している	○非該当
●あり ○なし	2. 医療的なケアが必要な子どもに、専門機関等との連携に基づく対応をしている	○非該当
●あり ○なし	3. 保護者と連携をとって、子ども一人ひとりの健康維持に向けた取り組み(乳幼児突然死症候群の予防を含む)を行っている	○非該当
評価項目7の講評		
<p>子どもが危険を自ら認識し、安全に遊びや活動に取り組めるよう、啓発を行っている</p> <p>散歩では出発や活動開始の際に、道路を歩く際の注意、公園内で遊んでよい範囲や遊具の使い方など、保育者が話をしている。また散歩や園庭遊びでは帽子をかぶることとしており、その目的や左記の安全に関する諸注意の理由など、子どもの理解力に応じて「なぜそうするのか」を伝えることも重視している。室内でも朝の会などの集まりや自由遊びの前などに、走り回らないことや遊ぶ際の決まり事などを伝え、幼児クラスでははさみなどの一定の危険を伴う道具も自由に使えるように設置しており、使い始めの際には使い方を教えている。</p> <p>子どもの保健に関する状況や日々の体調を確認し、健康維持に必要な支援を行っている</p> <p>入園時に、既往歴や体質・持病などの子どもの健康の状況を個別に把握し、医療的な配慮が必要な場合は、園医や家庭のかかりつけ医の指導のもとで、園で実施可能な対応を行うこととしている。また医師の指示に基づく投薬対応について、入園時に保護者に要領を説明し、所定の手続きのもとで行うほか、日常の子どもの体調管理、園医による内科・歯科の定期健診により、子ども一人ひとりが健康を維持できるよう支援している。手洗い・うがいや乳児の口ゆすぎから幼児の歯磨きまでの口腔ケア等、子どもへの健康教育も、保育者が生活の中で行っている。</p> <p>保健面における保護者への啓発や、子どもの健康管理に関する家庭との連携に努めている</p> <p>入園時の重要事項説明の際に、「入園のしおり」に基づいて、上記の投薬対応に関することのほか、各種の感染症の情報や罹患時の園の対応、登園再開の判断の基準などを保護者に説明している。また行政が発信する、SIDSを含む各種の保健の情報や、園内で発生している感染症の状況を、玄関に随時掲示するほか、毎月の園便りには、熱中症・各種感染症や予防接種、体調管理・風邪予防等、時季ごとの保健の話題を掲載するなど、保健面における保護者への啓発や、子どもの健康管理に関する家庭との適切な連携に努めている。</p>		

8 評価項目8		評点(〇〇〇〇〇)
保護者が安心して子育てをすることができるよう支援を行っている		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 保護者には、子育てや就労等の個々の事情に配慮して支援を行っている	○非該当
●あり ○なし	2. 保護者同士が交流できる機会を設けている	○非該当
●あり ○なし	3. 保護者と職員の信頼関係が深まるような取り組みをしている	○非該当
●あり ○なし	4. 子どもの発達や育児などについて、保護者との共通認識を得る取り組みを行っている	○非該当
●あり ○なし	5. 保護者の養育力向上のため、園の保育の活動への参加を促している	○非該当
評価項目8の講評		
<p>各家庭との連携と、それぞれの事情に即した柔軟な支援に努めている</p> <p>入園時に、保護者との面談と提出される各種書類から、各家庭の家族構成や育児の方針・生活習慣等を把握し、その後の日々のコミュニケーションや定例・随時の面談により、それらの状況の変化についても随時把握している。面談では園と家庭での子どもの様子や育ちの状況・見直しなどを、それぞれの家庭と共有している。また延長・土曜保育利用等への柔軟な対応や、日々の送迎時などで丁寧な対話にも努め、それぞれの家庭の事情に即した支援に取り組んでおり、急な利用時間の変更等への対応については、前回・今回とも利用者調査で高い支持を得ている。</p> <p>保育を可視的に保護者へ発信する取組が、活発かつ多様に行われている</p> <p>毎月の園便りでは、園の近況と当月の行事予定や各種の連絡事項、クラスの便りでは写真を多用し、その月の子どもとクラスの様子を伝え、幼児では絵本の紹介なども行っている。写真を積極的に用い、保育を可視的に保護者へ発信する取組は、その他にも活発に行っており、保育内容や子どもたちの様子を毎日配信するほか、行事や日常の活動での子どもたちの様子や取組の過程を伝える「ドキュメンテーション」の掲示や、インスタグラムでの動画も交えた発信もなされている。玄関ホールモニターでも、行事の様子が準備の様子などを、動画で随時伝えている。</p> <p>懇談会やさまざまに設ける行事が、園と保護者の交流や、家庭同士の懇親を深めている</p> <p>各クラスの4月の懇談会では、保育の目標・方針や月・年齢ごとの発達の特徴、かみつき等を含む育ちの見直しなどを伝え、保護者同士の懇談の場も設けている。1階の和室で喫茶と語らいを楽しむ懇親会も各クラスで実施し、その時間の預かり保育も提供している。また、園の畑で獲れた野菜を用い、お迎え時間に園内のレストラン(ランチルーム)で開くピザパーティー、夏の「美園まつり」や秋の「スポーツフェスティバル」、系列園と合同の秋祭りや冬の「クリスマスフェス」と生活発表会など、園と子ども・保護者がともに楽しむ行事を活発に設けている。</p>		

9 評価項目9 地域との連携のもとに子どもの生活の幅を広げるための取り組みを行っている		評点(〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 地域資源を活用し、子どもが多様な体験や交流ができるような機会を確保している	○非該当
●あり ○なし	2. 園の行事に地域の人の参加を呼び掛けたり、地域の行事に参加する等、子どもが職員以外の人と交流できる機会を確保している	○非該当
評価項目9の講評		
<p>子どもたちが地域のさまざまな世代の人々と楽しくふれ合い、交流を深めている</p> <p>日々の散歩等では、子どもたちが季節や地域の身近な自然の移ろいに触れ、行き逢う人々とは笑顔と挨拶を交わしている。また実習生や職場体験等の中高生が来園し、子どもたちと生活や保育をともにするほか、卒園児が活発に園を訪れ、身近な先輩として園児と楽しく交流している。近隣の私立高校との交流もあり、探究活動部・新聞部の生徒や教諭が来園し、幼児クラスで子どもたちとふれ合うほか、運動会や椅子取り・ハンカチ落とし等の遊びの企画を一緒に立てて楽しんだり、生徒と子どもたちとの「子ども会議」を開いて話し合ったりしている。</p> <p>地域の資源を活用して、子どもたちに多様な出会いと社会体験の機会を設けている</p> <p>1歳児から近隣へ買い物に出かけ、スーパーマーケット等で制作物の素材や調理活動の食材を買い求めたり、花屋さんで自分たちが植えたい花を選んだりしている。幼児は近隣の畑で収穫を体験し、5歳児は火おこしの活動について、図書館に向かい調べている。敬老の日になみ、子どもたちが地域の病院のデイサービス施設を訪れ、利用者の方たちとふれ合う経験や、小平霊園での花壇への花植えや職員の方との七夕の飾りつけ、昨年度のお泊まり保育での虫探しを楽しむ活動もなされている。市内の系列園の園児とも、猛暑時以外は随時交流が持たれている。</p>		

事業者が特に力を入れている取り組み①		
評価項目	6-4-4	日常の保育に変化と潤いを持たせるよう、行事等を実施している
タイトル①	行事の導入にあたっては子ども自身が考え行事を創り上げる体験を大切にしている	
内容①	<p>行事の導入にあたっては、「何をしたいか」「どう進めたいか」を子ども自身が考え、行事を創り上げる体験を大切にしており、すべての子どもの思いを尊重するため、集団での話し合いだけでなく、個別での丁寧な聴き取りなど、意見の把握にも努めている。「美園まつり」では、お化け屋敷やアクセサリー屋などを子どもが発案・制作し、年長のお泊まり保育では、遠足や制作、銭湯、クッキングといった希望に基づいた選択的な活動を導入している。生活発表会でも、日常の遊びや興味を再現したライブクッキングやファッションショーなどを披露している。</p>	

事業者が特に力を入れている取り組み②		
評価項目	6-3-4	子どもの状況等に関する情報を職員間で共有化している
タイトル②	子どもの主体性を尊重する保育の実践に向け、保育者間の丁寧な情報共有に努めている	
内容②	<p>子ども一人ひとりの主体性を尊重する保育を実践するためには、現在の発達状態や見通し、関心を詳しく把握することが必須となっている。また併せて実際の援助における保育者による見守りと援助の適切なバランスをとり、発達を促すための適切な環境を作り続けることも必要となっている。援助や環境の適切性を向上させるため、子どもの成長・発達を発達の現れに関するリストを活用した確認を実施している。確認を行う際には、多面的な子どもの姿を把握できるよう、リストの項目を一つずつ、複数の保育者で話し合うことを基本としている。</p>	

事業者が特に力を入れている取り組み③		
評価項目	3-3-1	透明性を高め、地域との関係づくりに向けて取り組んでいる
タイトル③	園の保育の特色を広く発信すべく、Instagramの活用に積極的に取り組んでいる	
内容③	<p>園の公式Instagramでは、「スポーツフェスタ」「美園まつり」などの季節ごとの行事の様態と、当日を迎えるまでの子どもたちの取組や、ごっこ遊び・制作、「レストラン」での食事や地域のさまざまな場所へ出かけての経験といった毎日の諸活動を、毎回複数枚の写真や動画を交え、保育者の言葉とともに発信している。子どもたちが楽しく取り組む姿や園の保育のエッセンスを、保護者や未就園世帯、採用希望者へ可視的にわかりやすく伝える媒体として、活用に注力しており、組織内の担当チームが内容の充実やフォロワーの獲得に取り組んでいる。</p>	

No.	特に良いと思う点	
1	タイトル	子どもの発達の特徴を踏まえたクラス編成と保育内容の工夫に努め、保育環境は子どもの主体的・自発的行動を促せるよう考慮している
	内容	0～1歳児クラスでは、年齢ではなく、発達の状態に即した「チーム保育」を採り入れている。2歳児クラスは、自我の芽生えに伴う自己活動を保障するため、独立した部屋で活動している。3～5歳児クラスでは、友達との関わりが著しく発達することから、異年齢の自由保育に加えて、社会性を伴う集団活動も採り入れ、個々の発達や習熟度を踏まえた活動を提供する「習熟度保育」を採り入れている。また遊び・食事・睡眠の空間を分けることで、生活リズムを保障し、安心感や見通しを持てるようにするほか、主体的・自発的な活動を促している。
2	タイトル	子どもが主体的に取り組む「レストラン給食」を通じて、食への意欲や責任感を育むとともに、達成感や充実感ももたらされている
	内容	3歳以上児では「レストラン給食」を導入している。11時30分から13時00分の開店時間内で、食べたい時に食事を摂る形式を採用し、量は子ども自身が決めている。ランチルームをレストランに見立て、当番の子どもが店員として、注文(量の大小)を聴き取り、給仕するなど、遊びの要素も採り入れている。店員としての活動は、やり取りやなりきりを楽しむだけでなく、お客さんのオーダーをしっかりと聴き、食事を丁寧に運ぶことで責任感を育むとともに、工夫したり、配慮したりしながらやり遂げることで、達成感や充実感ももたらされている。
3	タイトル	園と保護者や保護者同士の交流と信頼関係を深める機会をさまざまに設け、それを未来へと継承してゆく工夫にも取り組んでいる
	内容	懇談会では年度初めに、保育の目標・方針や年齢・発達段階ごとの子どもの育ちを保護者と共有し、保護者間の親睦の場も設けている。また別に行う懇親会では、各クラスで保護者が和室で喫茶と語りを楽しみ、園で収穫した野菜を用いたピザパーティー、「美園祭り」「スポーツフェスティバル」をはじめとする親子参加の行事も、園と保護者や保護者同士が交流と信頼関係を深める機会となっている。また結ばれた絆が継承され、園が長く子どもや保護者の心のよりどころとなるよう、昨年度の卒園児・世帯とは、5年後の令和12年の同窓会を企画している。
No.	さらなる改善が望まれる点	
1	タイトル	多様かつ活発に作成される種々の発信物は、訴求性を高めるための内容の精査や、さらなる活用の工夫の検討も期待される
	内容	園内の掲示物や入園時の諸資料には、園の保育の根幹とする考え方や手法が、言葉豊かにつづられている。それらの伝わりやすさ、さらには保護者の「読もうとする意欲」の喚起のしやすさを考慮すると、内容や文字量・情報量を精査する余地も見受けられる。また、写真と文章で保育や子どもの姿を伝える「ドキュメンテーション」等は、活動ごとの発信物としての用途に加え、それらの関連性やつながり、子どもの興味・気づきと活動の推移など、長期的な視点での保育の紹介や、それらを踏まえた保育者の振り返り等にも活用できるのではないかとと思われる。
2	タイトル	軽微なケガの検証や事例の蓄積を活かした傾向の把握、幼児室の環境を踏まえた見守りの工夫など、安全面におけるさらなる検討を期待したい
	内容	受診を伴うケガやかみつき・引っかき、関連のヒヤリハット事例については、検証と対策の検討を随時行っている。同様に軽微なケガについても、事例に応じた原因・対策等の検討や、任意の期間での集計による傾向の把握など、安全の向上に活かす工夫が期待される。また2階の幼児室の環境については、訪問調査では大型遊具や仕切り・囲いなどの配置の状況から、チームで保育をする保育者の配置によっては、死角が生じるタイミングもあるように見受けられた。大切に子どもの主体的な遊びと学びの保障の前提として、さらなる検討を期待したい。
3	タイトル	より地域に根づき、認知と評価を高めてゆくべく、園の資源を活かした未就園の子育て家庭への支援にも取り組みたいと考えている
	内容	地域内では比較的歴史の浅い園でありながら、定員を上回る入園を毎年度確保しており、地域における確かな認知と評価がうかがえるが、今後の経営環境を見すえ、より地域に根づき、関係を深めてゆくことや、上記を含むさまざまな園の保育の特色を発信し、存在感を高めることを課題と考えている。別掲のインスタグラムの活用をはじめ、情報の面では積極的な取組がなされているが、園庭開放や産前産後世帯向けの保育所体験など、園の資源を活かした未就園の子育て家庭への支援も企画したいと考えており、今後の検討に期待が寄せられる。